

サルバドール日本文化祭

8月25日(土) 17:00

皆様こんにちは。

本日は、第12回サルバドール日本文化祭がこのように盛大に開催されることを大変嬉しく思うと同時に、このようにオープニング・セレモニーに参加できることを非常に光栄に感じております。

サルバドール日本文化祭は、日系団体であるANISA（サルバドール日伯文化協会）が、連邦政府、バイーア州政府、サルバドール市の大きな協力を得て、日本の伝統文化からポップカルチャーまでを幅広く紹介する、北東ブラジルでは最大規模の日本祭りで、日本とサルバドール、バイーア州の友好親善に大きく貢献してきたと確信します。

本件開催のためにご支援頂いたバイーア州政府及びサルバドール市関係者に加え、各日系団体の方々、日本語学校の方々、和太鼓演奏の「和同」グループ、伯日文化協会の方々など、日本祭りの準備に携わったすべての関係者の皆様に、日本政府を代表して心から感謝申し上げます。

日伯友好の基盤である日本人のブラジル移住は今年で110周年になります。バイア州をはじめとする北東地域の日系社会の歴史は、サンパウロを中心とする南東部地域に比しては浅いですが、その日系人口は、今やサンパウロ、パラナ両州に続き多いと言われており、バイア州の日系社会の皆様も、伝統的な農業分野をはじめ、商工業、学術等、幅広く活躍されています。この日本文化祭の開催は、そうした日系社会の皆さんの、日本とブラジルの相互理解と友好促進への大きな貢献と言えましょう。

毎年、この日本祭りでは、地元サルバドールのみならずサンパウロ、あるいは日本からも様々なグループが参加され、多彩なプログラムが紹介されると聞いており、本年は特に移住110周年記念として、「ヒューマン・ビートボックス」といった新しいタイプのパフォーマンスで活躍中のREATMO（レイト）氏も、国際交流基金サンパウロ日本文化センターを通じて日本からお越しいただいております。

ご来訪の皆様には、距離的には日本から非常に遠いここブラジル、サルバドールで日本文化に触れることの出来るこの素晴らしいお祭りを是非存分に楽しんで頂きたいと思っております。

最後に、皆様のご健勝とサルバドール市とバイーア州の今後のさらなる繁栄、また、同地における日系社会のさらなる発展を祈念しまして、私からの挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

【参考】

1 ANISA（サルバドール日伯文化協会）

1975年5月31日（法人資格取得），家族会員：100，所在地：バイア州サルバドール市，活動内容：文化行事（毎年恒例のサルバドール日本祭は4万人規模），日本語学校運営，親睦行事等。

2 REATMO（リトモ）

口で様々な楽器音を奏でる「ヒューマン・ビートボックス」奏者。iPAD等の電子機材によってビートボックスや声を次々重ねていくことで，楽曲を構築，演奏していく独自の奏法を持つ。19歳で米国のビートボックスの大会で優勝する等，国内外でも活躍中。